

事業計画

◎祭典行事費

1 祭典諸費	一、七〇〇、〇〇〇
2 式典諸費	五〇、〇〇〇
3 遺墨展費	二〇〇、〇〇〇
4 記念出版費	八〇、〇〇〇
5 記念講演會費	二〇〇、〇〇〇
6 謝歌諸費	五〇、〇〇〇
7 各種大會費	一五〇、〇〇〇
8 協賛行事費	一〇〇、〇〇〇
9 施設費	五〇、〇〇〇
10 淡窓先生胸像製作費	五〇〇、〇〇〇
11 事務費	二七〇、〇〇〇
◎記念事業費	一四、九〇〇、〇〇〇
1 遠思楼移転諸費(完了)	四〇〇、〇〇〇
2 博物館建設諸費	一、五〇〇、〇〇〇
3 淡窓記念館建設諸費	一三、〇〇〇、〇〇〇
鉄筋コンクリート二階建二〇〇坪	
合計	一六、六〇〇、〇〇〇

二、I P の直入町調査と放送

本誌常任委員久多羅木、半田、賀川、立川の四氏は大分放送局郷土資料調査員として、加藤、松岡の二全調査員並に別府市の歌人田

吹繁子女史と共に、七月十三日から三日間、直入町の考古、歴史、民俗其他の調査研究を行い、多大の收穫を得、其の調査結果を翌十六日大分放送局から三十分間放送した。

その内容の主なるものは、大塚、甲斐両旧大庄屋に残る古文書と庶民資料、古墳よりの出土品、県下最初のキリシタン村としての歴史と遺物、社家部落の宮座其他の民俗、万葉に歌われた朽網山や俗謡「よいやな」等の文学、其他観光文化財等であつた。(立川)

三、杵築、速見の文化財

調査員の活躍

昨年、県下で最もすぐれた文化財目録を編輯刊行した杵築市、速見郡文化財調査委員会では、去る六月廿二日出町致道館で、文化財調査委員会研究資料編集について打合せた結果、「速見地方文化財調査報告書」を出版した。

四、復活した白杵、杵築

両市の史談会

戦争の影響で、久しく中止状態であつた、白杵史談会は、去る一月市長三浦義臣氏を会長として再発足し、研究座談会、実地踏査等

盛に活躍しているが、今回既刊四十二巻で休刊となつていた会誌「白杵史談」を年四回の季刊で復刊することとなつて、その初号を去る五月末日発行した。全じく久しく休止していた杵築史談会も市民の要望により八月廿三日同市安住寺で再発足し、同好者多数の参加があり今後の活躍が期待されている。

五、其他の地方

大野郡三重町史談会は深田地方の現地調査研究や、研究座談会を開催し、同郡大野町郷土研究会でも引き続き調査研究と、其の成果の印刷発表をするなど、県下各地とも郷土史研究が日を追い盛になつている。(立川)

会報

昭和卅年度本大会 (渡辺澄夫)

本会は去る五月十九日日本年度総会並びに大一会を、大分市昭和通商工会館二階ホールにおいて開催した。集る者百名以上で、空前の盛会であつた。大会の次才及び研究発表、特別講演の題目は左の通り。

一、研究発表(自午前十時、至十二時)

(1) 室町戦国期大友氏の花押について

史料刊行会 三木俊秋氏

(2) 仏教伝来初期の思想

—宇佐虚空蔵寺の調査より—

別大助教授 賀川光夫氏

(3) 豊後海部郡丹生庄について

大分大助教授 富来 隆氏

(4) 野津原の宿場町について

—民俗学的方法による復原—

同右 半田康夫氏

(5) 杵築佐野家のヒボクラテス像

について

医学博士 辛島詢士氏

二、総会(自午後一時至二時)

○庶務・編輯・会計報告

○役員の変更(昨年の通り)

○名誉会員の推せん、別府大学長佐藤義詮氏は名誉会員に推せんされた。

○規約の一部改正

(一) 八条の「委員の任期は一年とする」を「二年とする」に改正した。

(二) 一条の「会費は年額二百五十円とする」を「三百円」に改正した。

三、特別講演

大友後期の対明交通

別大講師 久多羅木儀一郎氏

(内容本号に掲載)

庄内郷土誌刊行記念行事

と本会の援助 (立川輝信)

前号渡辺氏紹介の通り、さきに郷土誌の編輯刊行を行った庄内町教育振興協議会では、その刊行記念行事として、本大分県地方史研究会並に大分県史料刊行会の協賛の下に、去る七月十日、同町阿南小学校講堂で次の行事を行い予期以上の成果を収め、関係者一同の満足は勿論地方人士に多大の感銘を与えた。

行事

一、古文書の展観と調査説明(自午前拾時至午後五時)。町内各所から持参した古文書(別項竹内先生文参照)を、九大竹内教授、清原原雄博士、渡辺分大教授、中野県史料刊行会主任、同三木俊秋氏其他久多羅木儀一郎、生駒昭彦氏等が子細に調査考証して、持参者や、一般参観人に随時現物に即し適切なる説明を与えたので多大の啓発と満足を得しめた。由来資料に乏しいとの定評のあつた庄内地方に別項所載の竹内先生の資料紹介文の如く予想外多数の古文書が集まり調査員一同汗だくで、午後五時漸

く終了することが出来た。特に学界未見の曾根崎文書を始め、田北文書其他多数の貴重古文書を披見することが出来たので一同大満足であつた。

二、経過報告 自午後一時

二宮教育長の式辞、曾根崎西庄内小学校長の経過報告、小野勝町教育委員長の祝辞があつて式を閉じ、引き続き次の講演を行った。

三、講演会、右引続き

左記順序により該当者は調査研究を中止して、逐次講演を行つたが、何れも当地方への関係題目、或は現時勢下最も適切な題目と内容であつたので、長時間に及んだにもかかわらず、聴講者は時の過ぎるのを知らなかつた。

聴講者は部内学校職員、教育委員、公民館職員其他町有志、一般町民三百余人であつた。本行事がかくも予期以上の成果を見たのは、全く曾根崎、匹田の正副編纂委員長を始め編纂委員各位、並に二宮教育長、小野町教育委員長等の用意周到なる企画と、労を惜しまぬ努力の結果が学校、公民館の全職員並に町民を動かした賜ものだと

云つてよい。従つてその反響は当地方は勿論、即夜其の状況が犬分並に福岡放送局から放送され、翌日は全国放送され、文中央地方の新聞も悉く之を報じた。

講演 次 才

1. 社会科学教育と地方史 中野 幡 能
2. 大分川流域の地理 兼子 俊 一
3. 阿南郷の今昔 渡 辺 澄 夫
4. 庄内郷の百姓一揆 別府大学講師 久多羅木儀一郎
5. 歴史教育に就て 文学博士 清原 貞 雄
6. 庄内町の古文書に就て 九大教授 竹 内 理 三
7. 庄内郷の古社寺に就て 立川 輝 信

本号より三十年代分です。会費(三百円)未納の方はすぐ入金して下さい。

府内に寛佐を訪ねた宗因の句

享保十九年に刊行された「三籟集」の中に西山宗因が九州旅行の時の句作が沢山採録してある。その中に

「豊後寛佐庵を尋ねし時」と題して

玉ほこのたよりになすな山桜

の句が出ている。

宗因は、後に府内円寿寺が十四世の法燈を継いで、寺内東井坊に住んだ寛佐法印が、在京修学の頃、共に里村昌琢に師事したが、後年、花の本昌通と共に府内に来て、寛佐に源氏物語の伝授を受けたことがある。或はその時の作か。はた又、其後再遊しての句か。

(立川)

五岳上人の狂歌

明治三年有馬純雄氏が弾正台大巡察使として日田に行つた際、広瀬家を宿舎としていたが、その広瀬の二階に登る処の壁に、五岳上人の狂歌が貼り付けて有つた。それは

我が好きは書画骨董角力に基

酒と女はいふまでもなし。

我が嫌ひ、天保コ梨にこそ焼麩

裏打ち唐紙比丘尼しほから

と云うのだつた。

(立川)

編輯後記

會員各位の御援助により三号雑誌に終らず、ここに才二年を迎え、通巻才五号を見ること出来ましたのは御同慶に堪えません。折角戴いた土井寛申、松岡実両氏の玉稿は既に本号が予定の頁を超過している上に、印刷に送つた後でしたので遺憾ながら次号に廻はしました。御投稿は早くして頂く様重ねて御願致します。

予定した寄附金が出来ぬことになり、運営上いささか困つています。會員各位一段の御協力により多数會員の獲得を願つてこの隘路を突破したいと存じます。

(立川)

本号頒價百二十円

昭和三〇年八月廿三日 印刷
昭和三〇年八月廿五日 発行

大分県地方史研究会

編集兼 代表者 渡 邊 澄 夫
発行人

印刷人 高 井 久 雄

印刷所 大分市上野 電話一七七五
三惠印刷株式会社

大分市歌原大分大学
学芸学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会
(振替口座下関五二四九番)